



出版クラブ会報
No.632

「出版界の失われた30年」に 終止符を打つ迅速で大きな改革を

日本出版クラブ会長 野間省伸 (のま・よしのぶ)

野 間 省 伸

あけましておめでとうございます。

昨年は日本人2名がノーベル賞受賞といううれしいニュースがありました。生理学・

医学賞を受賞した坂口志文さんは、12月の授賞式前の恒例のイベントで、受賞理由となる「制御性T細胞」がキャラクターとして登場するコミック『はたらく細胞』を、ノベル博物館に私物として寄贈しました。コミックという媒体は、世界最先端の研究でも分かりやすく世の中に伝えます。書籍に目を向けると昨年の

△新春紙上名刺交換
▽震災対策室だより
▽出版戦時記ある読書人の痕跡

年間ベストセラーは、吉田修一さんの『国宝』がダントツの1位でした(トーハン調べ)。さらにこの本を原作とした映画は興行収入が邦画の

実写における歴代最高記録を更新しました。吉田さんは黒衣として3年間舞台を取材されたと言います。綿密な取材に裏付けられた物語は映画業界も巻き込んだ一大ムーブメントとなりました。

近年ヨーロッパでは日本文学ブームが起きています。特にイギリスでは柚木麻子さんの『BUTTER』(新潮社)が英国推理作家協会賞(ダガ

(双葉社)が大手書店チェーンウォーターストーンズが選出する2025年「年間ベストブック賞」において、最終候補にノミネートされたりもしています。

非常に注目され評価も高い作品が出ている一方で、出版業界の大きな課題の一つが書店の数がこの20年で約半分に減少していることです。これを受け、昨年6月に「書店活性化プラン」が経済産業省から公表されプロジェクトチームが大臣直轄で立ち上げられました。

また、昨年11月には書店連の中心メンバーでもある藤健元経産大臣が衆議院予算委員長をお引き受けいただき、「たくさんある課題に対しても全出版人が同じ方向を向くことが簡単ではなくなっています。それでも一丸となつてやるべきことがたくさんあります。それでも一丸となつてやるべ

きました。また、記念講演では宇野重規東京大学社会科学研究所所長から「全出版人のみなさまとともに、知の民主主義を通じて、権威主義とリバタリアンに対抗していくべきと思っています」という力強いお言葉がありました。

委員会で書店支援の強化を求めたのに對して、高市早苗首相から「書店活性化プランに基づく支援策を引き続き実施し、今後もしっかりと書店の活性化を進める」という明確な答弁がありました。

今後は課題解決の施策をどう具現化するか、一刻も早い改善に向けた実行力が大切です。いつも申し上げているように、書店はただの販売拠点ではなく、読者が未知の情報や新しい価値観に出会う場であり、文化創造の基盤でもあります。出版界が豊かに発展するためには、書店の活性化が不可欠だと考えます。

日本の出版物の推定販売額はちょうど30年前の1996年に2兆6564万円を記録しましたが、昨年は書籍と雑誌を合わせて1兆円を切ったと思われます。いわば「出版界の失われた30年」に終止符を打つためには、迅速で大きな改革が必要です。出版界一丸となつて取り組んでいくべきな改革が必要です。出版界

記事主な

野間省伸・小野寺優・宮原博昭・近藤敏貴・矢幡秀治

六・十七

十八・十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

六十一

六十二

六十三

六十四

六十五

六十六

六十七

六十八

六十九

七十

七十一

七十二

七十三

七十四

七十五

七十六

七十七

七十八

七十九

八十

八十一

八十二

八十三

八十四

八十五

八十六

八十七

八十八

八十九

九十

九十一

九十二

九十三

九十四

九十五

九十六

九十七

九十八

九十九

一百

一百一

一百二

一百三

一百四

一百五

一百六

一百七

一百八

一百九

一百十

一百十一

一百十二

一百十三

一百十四

一百十五

一百十六

一百十七

一百十八

一百十九

一百二十

一百二十一

一百二十二

一百二十三

一百二十四

一百二十五

一百二十六

一百二十七

一百二十八

一百二十九

一百三十

一百三十一

一百三十二

一百三十三

一百三十四

一百三十五

一百三十六

一百三十七

一百三十八

一百三十九

一百四十

一百四十一

一百四十二

一百四十三

一百四十四

一百四十五

一百四十六

一百四十七

一百四十八

一百四十九

一百五十

一百五十一

一百五十二

一百五十三

一百五十四

一百五十五

一百五十六

一百五十七

一百五十八

一百五十九

一百六十

一百六十一

一百六十二

一百六十三

一百六十四

一百六十五

一百六十六

一百六十七

一百六十八

一百六十九

一百七十

一百七十一

一百七十二

一百七十三

一百七十四

一百七十五

一百七十六

一百七十七

一百七十八

一百七十九

一百八十

一百八十一

一百八十二

一百八十三

一百八十四

一百八十五

一百八十六

一百八十七

一百八十八

一百八十九

一百九十

一百九十一

一百九十二

一百九十三

一百九十四

一百九十五

一百九十六

一百九十七

一百九十八

きました。また、記念講演では宇野重規東京大学社会科学研究所所長から「全出版人のみなさまとともに、知の民主主義を通じて、権威主義とリバタリアンに対抗していくべきと思っています」という力強いお言葉がありました。

本年、出版クラブビルは開館9年目を迎えます。当初より取り組んできました3階の

活性化を進める」という明確な答弁がありました。

今後は課題解決の施策をどう具現化するか、一刻も早い改善に向けた実行力が大切です。いつも申し上げているよ

うに、書店はただの販売拠点ではなく、読者が未知の情報や新しい価値観に出会う場で

あり、文化創造の基盤でもあります。出版界が豊かに発展するためには、書店の活性化

が不可欠だと考えます。

ジエンダー・ダイバーシティの推進は出版界の発展にとってきわめて重要なことと考えています。

日本での出版物の推定販売額はちょうど30年前の1996年に2兆6564万円を記録しましたが、昨年は書籍と雑誌を合わせて1兆円を切ったと思われます。いわば「出版

界の失われた30年」に終止符を打つためには、迅速で大きな改革が必要です。出版界

一丸となつて取り組んでいくべき

改革が必

要です。

本年も何卒よろしくお願

いいたします。

(講談社社長)

